



春江中だより

【は】 っけん・気付く つなが【る】 【え】 がおを創り出す



春江中学校 教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

未来を主体的に生き抜くために～自ら進んでよく学ぶ生徒の育成を目指して～

校長 横枕 耕史

朝礼の校長講話で子どもたちに向かって、「学校は失敗してよいところです。失敗から成功が生まれるのだから、Try&Error を重ねながらポジティブに挑戦していこう。漫画スラムダンクの安西先生の台詞『あきらめたらそこで試合終了ですよ。』のとおり、目標に向かって粘り強く頑張ろう。」と自律的に学ぶ意義の大切さを語っています。子どもたち一人一人が興味・関心や能力・特性に応じて、「自分の学び」を自己調整し、自らの生き方をデザインし、持続可能な社会の作り手になることを期待しています。

本校は、令和6年度江戸川区教育課題実践推進校 研究課題「学力向上」について、研究主題「未来を主体的に生き抜くために～自ら進んでよく学ぶ生徒の育成を目指して～」と設定し校内研究を進めてきました。

なぜ、この研究を進めてきたのか。その理由として今を生きる子どもたちは、少子高齢化、グローバル情勢の混迷、生成 AI 等デジタル技術の発展など不確実な激しい変化が止まることがない時代を生きていかなければなりません。そのためにも、子どもたちには**未来を主体的に生き抜く力**を身に付けさせる必要があります。この力は、学習指導要領における各教科等の**見方・考え方を働かせ各教科等の特質に応じた資質・能力**と考え、学校での学習がその根幹といえます。しかし、本校生徒の中には**学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子ども**たちが少なからず存在しています。

そこで、本研究ではこの実態を解決させるために、生徒の「学ぶこと」への興味や関心を引き出

し、自己のキャリア形成の方向性と関連付けさせながら見通しをもたせます。さらに、PDCA サイクルで自己管理・自己調整させながら学習に粘り強く取り組ませ自分の目標が実現できるようにし、教育目標の「**自ら進んでよく学ぶ生徒**」へと変容させようと仮説を立て、実践・検証しながら研究を進めてきました。

各教科の授業では、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を明確にした「**主体的・対話的で深い学び**」の視点とともに、令和の日本型学校教育の個別最適な学び（個に応じた指導）と協働的な学びを取り入れた授業を展開するように心がけてきました。ポイントを絞って教え込むインプット中心の授業から、教員がファシリテーターとなり、一人1台端末などICTも利活用しながら、生徒が自ら考え、思考し、発表するなどアウトプット型の授業に切り替え、「**子どもを主語とした教育**」を目指し、分科会に分かれ研究してきました。

分科会テーマ

- ①「**学習習慣の確立**」…スケジュール帳を活用した家庭学習の定着
- ②「**教員の授業力向上**」…学習のねらいの提示やルーブリック評価など指導と評価の一体化を目指した授業改善
- ③「**基礎学力を育む ICT 利活用**」…ミライシートや Teams など ICT を活用した授業展開

まだ研究半ばで顕著な成果を上げたとはいえませんが、江戸川区教育課題実践推進校研究発表会を2月17日(月)に開催し、これまでの研究の一端を発表させていただきます。